

くすりと健康のはなし

薬やく包ほう紙し

第129回

医療保険委員会委員

一般社団法人岐阜県薬剤師会
瀬川祥子

皆様は調剤薬局を利用されたことがあられるでしょうか。今回は薬局の中で処方箋から薬が出来上がるまでをご紹介しますと思います。

お預かりした「処方箋」と「お薬手帳」はまず、「薬歴」と一緒にします。

薬歴とは、患者様のアレルギー、副作用、既往歴、体重など基本的な情報と、今までの処方薬、併用薬、患者様のお話や薬剤師の説明内容などが記録されている、いわばカルテのようなものです。

処方箋はお薬手帳と薬歴と照らし合わせ、「調剤前監査」を受けます。処方されている薬が適切かどうかを慎重に検討します。アンケートや体重をお伺いするのもそのためです。もし問題があれば処方医に確認し、正してからしか調剤を行いません。

次は「調剤方法」について考えます。薬によつては混ぜると変質したり、味が悪くなったりするものもあるので混ぜて良いか、また一包化では包装から出すと変質したり、一緒にできない組み合わせもあるので、ふさわしい調剤方法を薬剤師が設計します。

処方箋が薬になるまで

調剤が終わると、出来上がったものが処方箋通りがチェックします。粉はかたよりが無いが、異物が混入していないかなど、一包化の場合は一袋ずつ内容物があつているか確認します。

薬が出来上がりましたら、今度は薬袋や説明書、お薬手帳を確認し、問題なければ、「最終監査」に回します。最終監査では思い込みなどによる間違いを防ぐため、別の薬剤師がもう一度はじめの確認作業から振り返つてダブルチェックをします。すべて完璧な状態になりましたら、患者様をお呼びしてお渡しと説明をします。

「やつと来たか……」ですが、なんとそこからまた問題が発生することがあるのです。患者様とお話ししていくうちに、完璧なはずの薬が「今日から薬増やすって言われたけど、増えてないの？」などと、お話と食い違っていることもしばしばあります。

正確で安全な薬のためには、「患者様のこと」を教えていただくことが一番大切です。どうか薬剤師には些細なことでもお話しください。